

一年を振り返って

1年生 西原 優作

私が同志社大学に入学し、さらに航空部に入部して十か月が経とうとしています。今回、翔友の原稿を依頼されるにあたって私に与えられたテーマは特になく、何を書くにも自由ということでした。そこで私は何を思って入部し、何を思い一年弱を過ごし、これからに向けて何を思っているかを書こうと思います。

まず私が航空部に入部することを決めた理由は正直「直感」です。高校時代卓球部に所属していた私は結局三年間でこれといって戦績を残せませんでした。大学になってからは今度こそ成果の残せるものを始めようと考えていた私の目に留まったのが航空部の勧誘のビラでした。「航空部」という言葉の新鮮さ、空を飛べるというロマン、そしてほかのサークルや部活とは違い質の良い印刷を用いていたそのビラは私の目と心を惹きつけました。大学から始めるのに何とうってつけな活動内容なのだ、何よりもこんないい印刷を使っているところが駄目な部活であるはずがない、と直感しほかのサークル勧誘には目もくれず私は航空部の門を叩いたのです。

さて、航空部に入部し本格的に活動を開始してまず思ったことは、とにかく覚えることが多いということです。今までに触れたこともない世界だということもあって知識は何もありません。機体のこと、組織のこと、合宿のことなど体育会と言いつつも頭を鍛えている気分でした。さらに思ったことはお金がかかるということです。一回の合宿でもそれなりの額のお金がかかりましたし、特に入部当初は購入しなければならぬものや、いろいろな手続きにお金がかかり大変でした。

こんな困難の中で活動維持のモチベーションになったのは、部内の雰囲気と月に一度の合宿の新

鮮さでした。正式な入部以前より常々思っていたのですが、この部のメンバーは先輩方も同期の友人もとても親しみやすく居心地がよかったです。この部内の居心地の良さは、自分の直感は間違っていなかったと何度も確信させました。この雰囲気もさることながら、最も自分のモチベーションにつながったのは何と言っても合宿の楽しさです。そこでは普段にはない経験ができました。他大の学生と知り合うことができます。たとえほかの大学だとしても、合宿を全員で協力し成り立たせていくのは航空部の素晴らしいことの一つです。友人とはより仲良くなれます。時には一週間も同じ空間で生活を共にすれば他大の人であろうとも仲良くなれないはずがありませんでした。そして何より楽しいことは飛ぶこと自体です。こればかりは他のサークルや部活では体験できません。何も経験がないところから始めて、徐々に操縦に慣れていき思ったように操作できるようになってゆく過程の楽しさはこの部活の醍醐味です。私もこの一年弱でだんだんとコツをつかんできました。

独り立ちもしてより自由に行動できるようになった今後は、より積極的にフライトしてより上達していきたいと思います。

自分たちが入部してからもうすぐ一年が経とうとしています。私は航空部の二回生は一番忙しくなると考えています。部員としてはまだまだ先輩方から教えられることがありながら、今度は自分自身が先輩として後輩の指導もしていかななくてはならないからです。自分は現在機材係養成です。一人前となるにはまだまだ道は遠いようです。その他にも組織の維持のために牽引ドライバーも目指すつもりです。一年たっても先輩には指導を請うことになりそうです。

さらに私は副将という大役も仰せつかりました。来年、私は部のまとめ役として航空部を支えていかななくてはなりません。また二回生になるということは一人の先輩になるということです。次に来る後輩に最も近く接して、指導していかなくてはならない立場です。これだけ挙げてみても来年度はやるべきこと、やらなくてはならない仕事が山のようにあります。

そこで私は来年度の活動に向けて少々早いですが個人的にテーマを決めました。それは「行動力」。率先して仕事に取り組み、憂いがないような一年にしたいと思っています。今は個人的な目標にすぎませんが、これが部全体の雰囲気として備わればなお良いと思います。

私はこれからが航空部員として本番だと思っています。ついに自分たちの手で部を動かしていく番になりました。一人の航空部員として悔いを残さないように、そしてこれからも続いていく航空部のために今より一層全力を出して頑張っていこうと思います。

